

株主の みなさまへ

第200期 事業報告書

2022年4月1日から2023年3月31日まで



ごあいさつ

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当連結会計年度におきましては、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和される中、深谷市において大型商業施設が10月に開業されるなど、沿線への交流人口増加の動きも見られました。当社グループでは、こうした環境変化を捉え、ダイヤ改正を実施するとともに、沿線の市町や商業施設、同業他社と連携した誘客活動を積極的に展開し、地域の活性化と収益の確保に努めました。

しかしながら、感染症の波動的な拡大や電力料金をはじめとする諸物価の上昇など、当社グループを取り巻く経営環境は、依然として厳しい状況が続きました。

この結果、当連結会計年度の営業収益は4,688百万円（前期比7.7%増）、営業損失は361百万円（前期は287百万円の営業損失）、経常損失は311百万円（前期は192百万円の経常損失）となりました。また、主に鉄道事業におきまして、収益性の低下による減損の兆候が認められたことから、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき資産グループ毎に将来の回収可能性を検討した結果、固定資産の減損損失として特別損失に5,894百万円を計上いたしました。これにより、親会社株主に帰属する当期純損失は5,046百万円（前期は47百万円の親会社株主に帰属する当期純損失）となりました。

当期の配当金につきましては、会社法に定める配当可能原資を確保できていないことから、誠に遺憾ながら引き続き無配とさせていただきたいと存じます。株主の皆様には、お詫び申し上げますとともに、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

当社グループは、鉄道事業を柱として事業展開していることから、公共交通機関としての「安全・安心・安定」を維持できる事業者であることが使命であり、輸送の安全、無事故無災害の達成を最優先課題に掲げております。この課題の達成に向け、全役員・従業員が、安全に対し常に意識を持ち業務にあたるとともに、近年頻発・激甚化する自然災害などに対応すべくソフト・ハード両面における取り組みを更に強化してまいります。

また、当社沿線における居住人口の長期的な減少傾向が続く中、電力料金をはじめとするコストの上昇により、非常に厳しい事業環境にあります。公共交通事業者としての責務を果たし続けていくため、経費削減等の経営努力を続けるとともに、事業の採算性のほか多面的な検証を行い、適正な運賃・料金について検討を行ってまいります。

他方、今後の持続可能な成長を実現するためには、「人財」への投資は必要不可欠であります。人財への投資を増やしていき専門知識や経験を有する人財を育成するとともに、就業環境の改善を図り、従業員にとって魅力ある会社づくりを進めてまいります。

当社ふかや花園駅周辺における「花園IC拠点整備プロジェクト」による各施設の開業は、沿線への交流人口増加の契機となっております。引き続きその効果を最大限に享受すべく、

また、沿線の各観光施設への周遊の機会を増加させるべく、当社グループ一体となり、各種イベント、諸施策を実施してまいります。

加えて、安定収益の拡大を図るため、駅前を中心とした遊休不動産の活用方法を検討し実行してまいります。

当社は、これらを実現するための体制づくりとして、新年度より組織を見直し、グループ全体の観光事業の再構築と、より安定的で収益力の高い不動産事業への転換を目指してまいります。今後は、グループ会社の統合・再編も視野に入れ、経営の効率化による早期の業績回復と強固な経営基盤の構築を図り、もって、企業価値向上と地域貢献に努めてまいります。

敬具

2023年6月

代表取締役社長 牧野 英伸

事業の概況

当社グループは鉄道事業を中核とし、不動産事業、観光事業、バス事業、その他事業を展開しております。当期におけるセグメント別の事業の概況は次のとおりです。

鉄道事業

鉄道事業におきましては、輸送の安全性向上を図るため、設備面では熊谷駅駅舎耐震補強工事や小前田変電所高速度遮断器更新工事などを実施するとともに、異常時訓練や警察機関との共同訓練の実施、安全指導による従業員の意識向上に取り組みました。

旅客部門では、ダイヤ改正により、輸送力の強化や羽生・行田市方面から長瀬・秩父方面へのアクセス向上を図るなど、旅客需要に応じた利便性向上に努めました。また、SLの魅力高める各種企画列車の運行、記念乗車券類の発売のほか、駅前イベントの2拠点同時開催や同業他社と連携するフリー切符の利用区間拡大など、沿線周遊促進策にも取り組み、旅客誘致に努めました。これらにより、定期・定期外旅客の人員および収入は前期に比べ増加いたしました。

貨物部門では、輸送量が減少したことにより、貨物収入は前期に比べ減少いたしました。営業費用は、電力単価高騰により電力費が大幅に増加したことに加え、設備投資に伴う減価償却費などにより、前期に比べ大幅に増加いたしました。

この結果、営業収益は3,047百万円（前期比3.5%増）、営業損失は415百万円(前期は237百万円の営業損失)となりました。

不動産事業

不動産事業におきましては、熊谷駅南口駐車場の稼働率が向上するなど、賃貸収入は前期に比べ増加いたしました。

一方、営業費用は、賃貸物件の修繕工事実施などにより前期に比べ増加いたしました。

この結果、営業収益は349百万円（前期比2.1%増）、営業利益は159百万円（同8.2%減）となりました。

観光事業

観光事業におきましては、行動制限の緩和やいわゆる県民割などにより、個人利用が増加したほか、団体利用にも一部回復が見られました。

営業費用は、光熱費などが増加いたしました。

この結果、営業収益は403百万円（前期比9.8%増）、営業損失は30百万円（前期は36百万円の営業損失）となりました。

バス事業

バス事業におきましては、学校団体など一部の貸切バス需要に回復が見られたほか、4月からの新規スクールバスの運行開始もあり、収入は前期に比べ増加いたしました。

営業費用は、修繕費の増加のほか、燃料費高騰の影響も受けました。

この結果、営業収益は204百万円（前期比30.8%増）、営業損失は64百万円（前期は100百万円の営業損失）となりました。

その他事業

その他事業におきましては、卸売・小売業では、コンビニエンスストアなどの売上が堅調に推移したほか、建設・電気工事業では、推進工事の受注がありました。また、旅行業では、2月から全天候型レジャー施設として「長瀬トリックアート有隣倶楽部」の営業を開始いたしました。

この結果、営業収益は1,014百万円（前期比14.6%増）、営業損失は26百万円（前期は101百万円の営業損失）となりました。

当期のトピックス



ふかや花園駅目の前に ふかや花園プレミアム・アウトレット開業

2022年10月20日（木）開業初日の開店前には約3,700人が行列をつくり、オープンを心待ちにしている方で溢れました。また、ふかや花園駅の乗降客数は、プレオープン日の19日に約18,000人、20日約9,000人と大勢のお客様にご乗車いただきました。開業に伴い、ふかや花園駅舎へのイルミネーションや駅前マルシェ開催、記念乗車券等の販売を実施いたしました。



開業初日のふかや花園駅の様子



CR
17 **ふかやはなぞの** 深谷花園
深谷花園
深谷花園
新開業駅
ふかや花園
FUKAYA-HANAZONO

おまえだ
OMAEDA
小幡田 小幡田 空閑田

埼玉県
深谷市

ながた
NAGATA
ながた 永田 永田

駅名看板

駅名看板の多言語化リニューアル及び駅ナンバリングを導入

今後のインバウンド需要の回復を見込み、訪日外国人旅行者の方をはじめ全てのお客様によりわかりやすく、安心して秩父鉄道をご利用いただけるよう駅名看板の多言語化リニューアル及び駅ナンバリングを導入いたしました。沿線地域の自然や歴史の特色を活かし、地域の皆さまが愛着をもてるデザインとなっております。

秩父鉄道創立123周年記念 イベント実施や記念乗車券発売

スタンプラリーや親子向けおしごと体験イベントを実施したほか、旅客駅37駅の硬券入場券をセットにした「秩父鉄道創立123周年記念全駅入場券」、昭和時代に使用していた社章バッジをセットにした「秩父鉄道創立123周年記念乗車券」を発売いたしました。また、音楽フェス「ちちてつ123オータムフェスタinふかや×ながとろ」を開催し、埼玉県にゆかりのあるアーティストによるステージイベントを実施いたしました。



当日の様子



秩父鉄道創立123周年ロゴマーク

「わくわく鉄道フェスタ2022」SL転車台公園にて開催

2022年5月14日（土）三峰口駅のSL転車台公園にて「わくわく鉄道フェスタ2022」を開催いたしました。前年来場者を上回る約2,400名の方にご来場いただきました。感染症対策を徹底しながら、鉄道関連品の販売やキッチンカーの出店、ゲストによる鉄道トークショーや音楽ステージなどで盛り上がりました。

「SL PALEO EXPRESS Wedding」お客様第一号を祝福

2021年6月に当社従業員がモニターとして挙式を行って以後、一般のお客様による初めての「SL PALEO EXPRESS Wedding」が執り行われました。今後もより多くのお客様にご利用いただけるようご案内してまいります。



節分豆まきト레인



当日の様子

「ひえひえ列車」「節分豆まきト레인」復活や新たなイベント列車運行

ご好評いただいていたイベント列車「ひえひえ列車」「節分豆まきト레인」を3年ぶりに運行したほか、車内をイルミネーションで彩る「クリスマスイルミネーショント레인」等の新規イベント列車、沿線の企業や自治体などと連携した企画列車を多数運行いたしました。

「長瀬トリックアート有隣倶楽部」グランドオープン

2023年2月25日（土）秩父観光興業株式会社は、株式会社エス・デーとフランチャイズ契約による国内14件目の全天候型レジャー施設「長瀬トリックアート有隣倶楽部」をオープンいたしました。コンセプトは、『見て・触って・写真が撮れる・不思議な美術体験』。視覚の錯覚や立体トリック等をはじめ、多分野にわたるトリックの要素を取り入れた体験型アート施設です。同館では、江戸文化や忍者・お化け・妖怪などの“和”をモチーフとした作品を中心とし、同館だけのトリックアート作品を含めた合計34作品を「江戸タイムスリップゾーン」「忍者屋敷体験ゾーン」「怖くないお化け屋敷ゾーン」「動物ゾーン」の4つのゾーニング展示をしております。

長瀬ラインくんだり安全運航の取り組み

四季を通して多くのお客様にご利用いただいている「長瀬ラインくんだり」は、国土交通省・日本小型船舶機構発行の川下り船の安全対策ガイドラインに則り、安全規定に適合したライフジャケットを使用している他、定期的に異常時訓練等を実施し安全運航に努めております。



長瀬ラインくんだり



※Trick Art（トリックアート）は、株式会社エス・デーの登録商標です。

新築アパート「グランツ小前田」

2023年春に小前田駅東側社有地に賃貸アパート「グランツ小前田」が竣工いたしました。これは、2008年竣工の「グランツ武川」以来15年ぶりの新規賃貸物件となります。1LDK全10戸で、無料Wi-Fi、ウォークインクローゼット、浴室乾燥機など賃貸住宅の人気設備を取り揃え、周辺アパートとの差別化を図ってまいります。



外観



スクールバスイメージ

秩父鉄道観光バス株式会社による「行田市スクールバス」運行開始

行田市内北部の小学校の再編計画が進められ、児童数の減少に伴い適正規模で授業ができない問題点を解消する目的として、小学校の統廃合とスクールバスの運行が決定し、秩父鉄道観光バスがスクールバス運行を請け負うことになりました。バス車両は、秩父鉄道観光バスカラーである黄色に塗装された小型バス3両で、衝突防止補助システム装置・ドライブレコーダー（車内2個・車外3個）・デジタコ（デジタル式運行記録計）管理・バスdoconeel（バス現在地をスマホ及びパソコンから今どこをバスが走っているかわかる感知システム）・GPS無線機・バスジャック対策装置・AED機器（児童用）・緊急治療薬等が装備され、車内抗菌・除菌も処理済となっております。これを機に市内小学校をはじめ、行田市内の営業をさらに拡大し、地元にも愛される会社を目指してまいります。

SLイメージのキッチンカー導入

株式会社秩鉄商事では、テント販売以外でも様々な出店場所に対応でき、安心してお客様に商品を提供する手段として、「SLパレオエクスプレス」をイメージしたフルラッピング仕様のキッチンカーを導入いたしました。どんなイベントにも即時に対応できるよう利便性を考慮し軽貨物車を改造したミニキッチンカーとなっております。沿線地域の催事、各種イベントにも出店拡充を図ってまいります。



キッチンカー出店の様子

連結財務諸表①

連結貸借対照表の要旨

(単位：千円)

科目	当連結会計年度末 2022年度	前連結会計年度末 2021年度	増減額
(資産の部)			
流動資産	1,582,231	2,504,406	△ 922,175
固定資産	15,372,168	21,198,755	△ 5,826,587
資産合計	16,954,399	23,703,161	△ 6,748,762
(負債の部)			
流動負債	3,762,020	4,305,650	△ 543,630
固定負債	8,162,073	9,363,524	△ 1,201,451
負債合計	11,924,093	13,669,175	△ 1,745,082
(純資産の部)			
株主資本	△ 2,250,328	146,334	△ 2,396,662
資本金	750,000	750,000	-
資本剰余金	19,032	19,014	18
利益剰余金	△ 2,987,480	△ 590,981	△ 2,396,499
自己株式	△ 31,880	△ 31,698	△ 182
その他の包括利益 累計額合計	7,269,491	9,876,538	△ 2,607,046
非支配株主持分	11,141	11,113	27
純資産合計	5,030,305	10,033,986	△ 5,003,680
負債純資産合計	16,954,399	23,703,161	△ 6,748,762

連結損益計算書の要旨

(単位：千円)

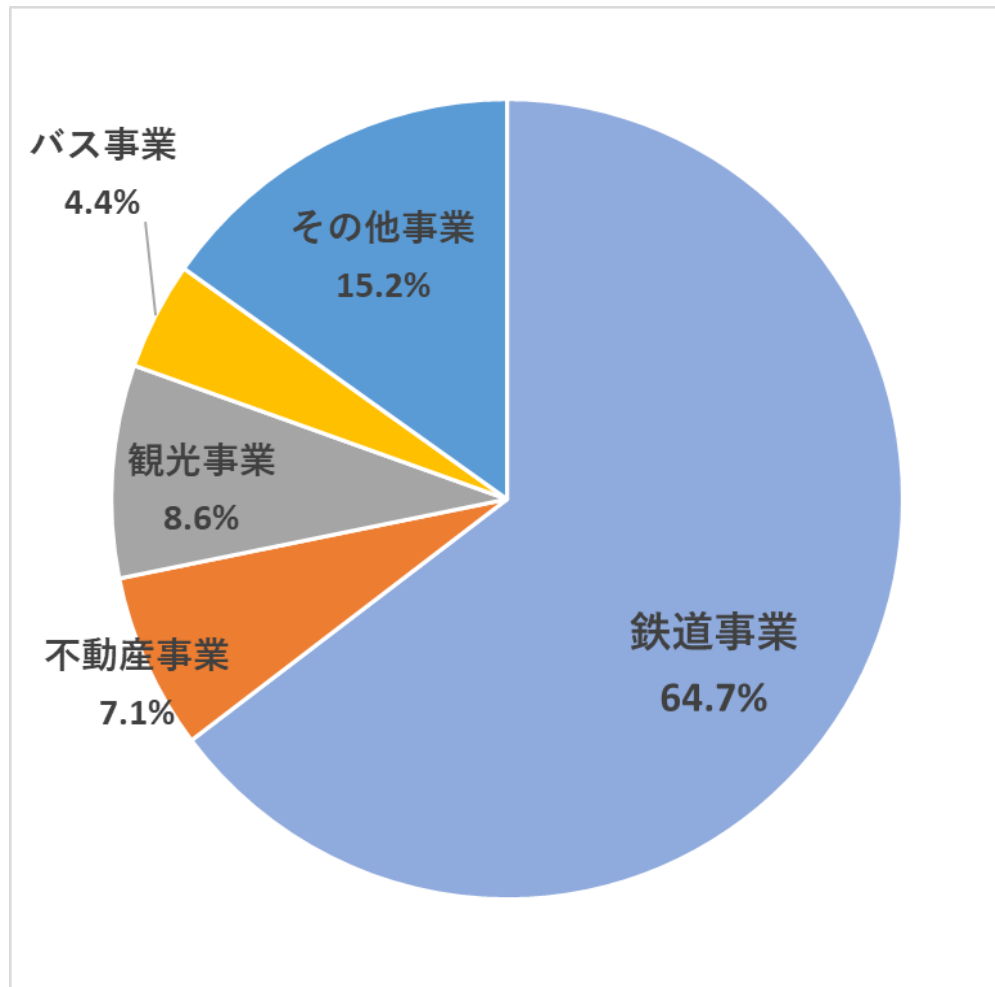
科目	当連結会計年度 2022年度	前連結会計年度 2021年度	増減額
営業収益	4,688,280	4,352,172	336,107
営業費	5,049,651	4,639,419	410,231
営業損失 (△)	△ 361,371	△ 287,247	△ 74,124
営業外収益	97,244	137,152	△ 39,908
営業外費用	47,644	42,438	5,205
経常損失 (△)	△ 311,771	△ 192,532	△ 119,238
特別利益	11,220	1,122,385	△ 1,111,164
特別損失	5,904,031	1,085,140	4,818,891
税金等調整前当期純損失 (△)	△ 6,204,583	△ 155,288	△ 6,049,294
法人税、住民税及び事業税	8,885	6,581	2,304
法人税等還付税額	-	△ 21,512	21,512
法人税等調整額	△ 1,167,176	△ 92,226	△ 1,074,949
当期純損失 (△)	△ 5,046,292	△ 48,130	△ 4,998,161
非支配株主に帰属する当期 純利益又は非支配株主に帰 属する当期純損失 (△)	6	△ 408	414
親会社株主に帰属する当期 純損失 (△)	△ 5,046,299	△ 47,722	△ 4,998,576

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

連結財務諸表②

セグメント別営業収益構成比

(単位：千円)



連結株主資本等変動計算書

(単位：千円)

科目	当連結会計年度 (2022年度)	前連結会計年度 (2021年度)
株主資本		
当期首残高	146,334	198,764
会計方針の変更による累積的影響額	—	△ 10,631
会計方針の変更を反映した当期首残高	146,334	188,132
当期変動額		
親会社株主に帰属する当期純損失 (△)	△ 5,046,299	△ 47,722
自己株式の取得	△ 336	△ 179
自己株式の処分	172	6
土地再評価差額金の取崩	2,649,800	6,097
当期変動額合計	△ 2,396,662	△ 41,797
当期末残高	△ 2,250,328	146,334
その他の包括利益累計額		
当期首残高	9,876,538	9,981,625
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△ 2,607,046	△ 105,087
当期変動額合計	△ 2,607,046	△ 105,087
当期末残高	7,269,491	9,876,538
非支配株主持分		
当期首残高	11,113	11,563
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	27	△ 449
当期変動額合計	27	△ 449
当期末残高	11,141	11,113
純資産合計		
当期首残高	10,033,986	10,191,953
会計方針の変更による累積的影響額	—	△ 10,631
会計方針の変更を反映した当期首残高	10,033,986	10,181,321
当期変動額		
親会社株主に帰属する当期純損失 (△)	△ 5,046,299	△ 47,722
自己株式の取得	△ 336	△ 179
自己株式の処分	172	6
土地再評価差額金の取崩	2,649,800	6,097
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△ 2,607,018	△ 105,536
当期変動額合計	△ 5,003,680	△ 147,334
当期末残高	5,030,305	10,033,986

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

個別財務諸表①

個別貸借対照表の要旨

(単位：千円)

科目	当連結会計年度末 2022年度	前連結会計年度末 2021年度	増減額
(資産の部)			
流動資産	1,171,620	2,004,535	△ 832,915
固定資産	15,231,950	21,058,507	△ 5,826,556
資産合計	16,403,571	23,063,043	△ 6,659,471
(負債の部)			
流動負債	3,526,045	4,004,846	△ 478,800
固定負債	7,942,485	9,135,278	△ 1,192,792
負債合計	11,468,530	13,140,124	△ 1,671,593
(純資産の部)			
株主資本	△ 2,342,234	41,441	△ 2,383,675
資本金	750,000	750,000	—
資本剰余金	14,162	14,144	18
利益剰余金	△ 3,074,516	△ 691,004	△ 2,383,511
自己株式	△ 31,880	△ 31,698	△ 182
評価・換算差額等	7,277,274	9,881,477	△ 2,604,203
純資産合計	4,935,040	9,922,918	△ 4,987,878
負債・純資産合計	16,403,571	23,063,043	△ 6,659,471

個別損益計算書の要旨

(単位：千円)

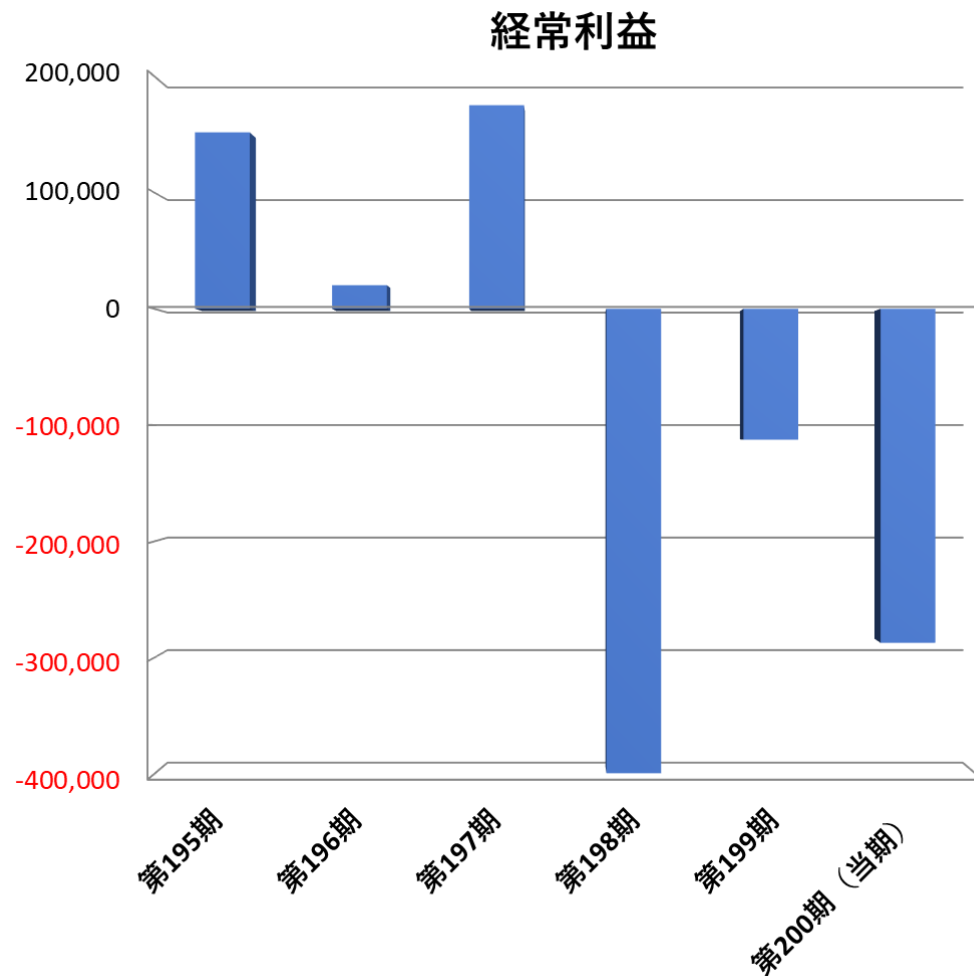
科目	当会計年度 (2022年度)	前会計年度 (2021年度)	増減額
鉄道事業			
営業収益	3,047,571	2,943,981	103,590
営業費	3,463,003	3,181,190	281,813
営業損失 (△)	△ 415,432	△ 237,209	△ 178,223
不動産事業			
営業収益	349,140	341,927	7,213
営業費	189,887	168,532	21,354
営業利益	159,253	173,394	△ 14,141
観光事業			
営業収益	226,518	201,904	24,614
営業費	257,358	247,469	9,888
営業損失 (△)	△ 30,839	△ 45,565	14,726
全事業営業損失 (△)	△ 287,018	△ 109,380	△ 177,638
営業外収益	56,218	45,208	11,009
営業外費用	56,185	48,268	7,916
経常損失 (△)	△ 286,985	△ 112,440	△ 174,545
特別利益	9,914	1,112,572	△ 1,102,658
特別損失	5,922,697	1,122,840	4,799,856
税引前当期純損失 (△)	△ 6,199,768	△ 122,708	△ 6,077,059
法人税、住民税及び事業税	3,839	836	3,002
法人税等還付金	—	△ 21,512	21,512
法人税等調整額	△ 1,170,295	△ 91,614	△ 1,078,680
当期純損失 (△)	△ 5,033,312	△ 10,417	△ 5,022,894

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

個別財務諸表②

個別経常利益推移表

(単位：千円)



株主資本等変動計算書

(単位：千円)

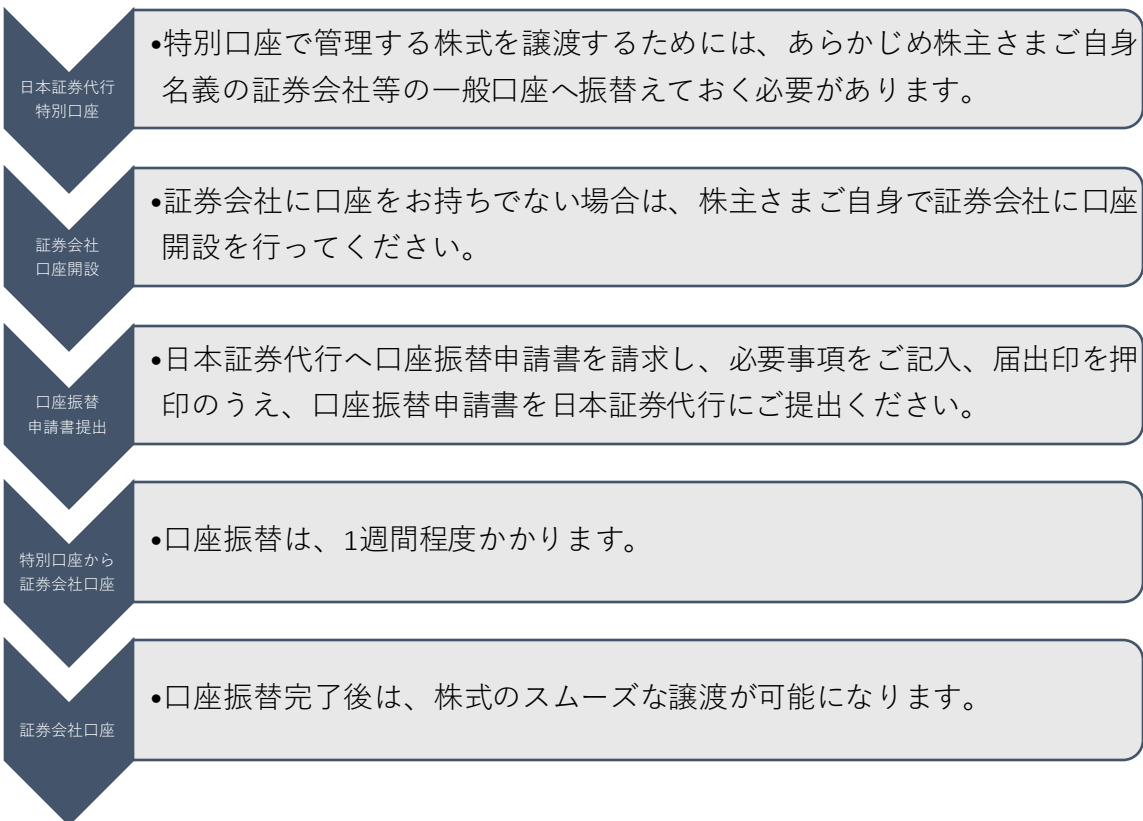
科目	当会計年度 (2022年度)	前会計年度 (2021年度)
株主資本		
当期首残高	41,441	51,805
会計方針の変更による累積的影響額	—	△ 10,631
会計方針の変更を反映した当期首残高	41,441	41,173
当期変動額		
当期純損失 (△)	△ 5,033,312	△ 10,417
自己株式の取得	△ 336	△ 179
自己株式の処分	172	6
土地再評価差額金の取崩	2,649,800	10,858
当期変動額合計	△ 2,383,675	267
当期末残高	△ 2,342,234	41,441
評価・換算差額等		
当期首残高	9,881,477	9,974,282
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△ 2,604,203	△ 92,804
当期変動額合計	△ 2,604,203	△ 92,804
当期末残高	7,277,274	9,881,477
純資産合計		
当期首残高	9,922,918	10,026,087
会計方針の変更による累積的影響額	—	△ 10,631
会計方針の変更を反映した当期首残高	9,922,918	10,015,455
当期変動額		
当期純損失 (△)	△ 5,033,312	△ 10,417
自己株式の取得	△ 336	△ 179
自己株式の処分	172	6
土地再評価差額金の取崩	2,649,800	10,858
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△ 2,604,203	△ 92,804
当期変動額合計	△ 4,987,878	△ 92,536
当期末残高	4,935,040	9,922,918

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

証券会社に口座をお持ちでない株主さまへ

株券電子化（平成21年1月5日実施）の際に、証券会社等の口座で当社株式を管理されていなかった株主さまの株式、当社が日本証券代行株式会社に開設した特別口座で管理されています。「特別口座」で管理されている株式を譲渡する場合は、特別口座と同一の名義で開設されている証券会社等の一般口座へ振替を行う必要があります。将来の株式譲渡をスムーズに行えるように、あらかじめ特別口座から一般口座に振替えておくことをお勧めします。

特別口座からの振替のご案内

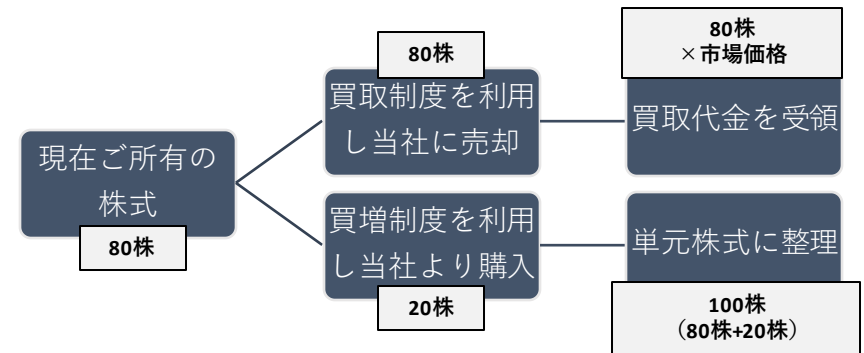


単元未満株式の買取・買増制度のご案内

当社の単元株式数は、100株ですので、100株未満の単元未満株式は市場で売ることができません。当社では、「買取請求制度」「買増請求制度」を用意しておりますので、ぜひお手続きくださいますようお願いいたします。

買取制度 ご所有の単元未満株式を当社に買取するよう請求できる制度です。

（例）当社株式を80株ご所有の場合、その80株を市場価格で当社に売却し、代金を受領する。



買増制度 ご所有の単元未満株式を1単元（100株）の株式にするために必要な株式を買増すことを当社に請求できる制度です。

（例）当社株式を80株ご所有の場合、20株を市場価格で当社から購入し、100株にする。

特別口座・単元未満株式の処理についてお問い合わせ下さい。

日本証券代行 代理人部 （平日9：00～17：00）

0120-707-843

株主優待制度

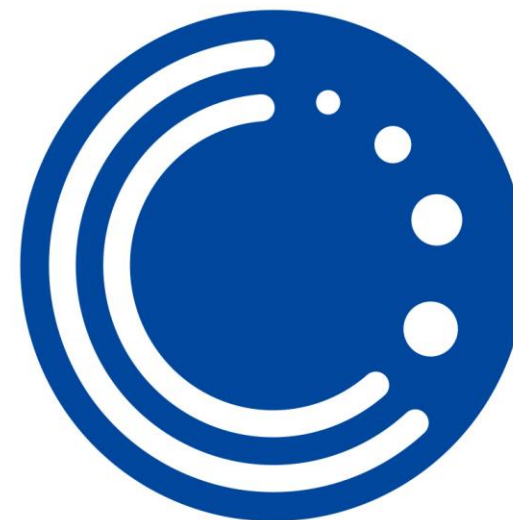
毎年3月31日の最終の株主名簿に記録された株主さまに対して、その所有株式数に応じて次のとおり優待乗車証・優待割引券を発行いたします。

1. 優待乗車証（定期券式）

ご所有の株式数に応じまして、優待乗車証を発行いたします。

ご所有株式数	乗車証の種類	発行枚数
1,500株以上 2,100株未満	当社電車全線優待乗車証	1枚
2,100株以上	当社電車全線および索道（宝登興業株式会社 宝登山ロープウェイ） 全線優待乗車証	1枚

※有効期間：6月1日から1カ年間（5月下旬発送）



2. 優待乗車証（回数券式）

ご所有の株式数に応じまして、優待乗車証を発行いたします。

ご所有株式数	発行枚数
100株以上300株未満	2枚
300株以上500株未満	4枚
500株以上1,000株未満	6枚
1,000株以上	10枚

※有効期間：7月1日から1カ年間（6月下旬発送）

3. 優待割引券

ご所有株式数100株以上で、優待割引券を発行いたします。

施設名	発行枚数
長瀬ラインくんだり ガーデンハウス有隣お食事代 （飲み物は除く）	50%割引券 各5枚
宝登山小動物公園 （宝登興業株式会社）	特別入園券 5枚

※有効期間：7月1日から1カ年間（6月下旬発送）

役員・株主メモ

役員（2023年6月28日現在）

代表取締役社長	牧野 英伸
取締役	坂本 昌己
取締役	鷹啄 泰則
取締役	中山 高明
取締役	曾田 哲也
常勤監査役	根岸 俊介
監査役	林 俊宏
監査役	正田 孝之



秩父鉄道株式会社

〒360-0033 埼玉県熊谷市曙町一丁目1番地
TEL 048-523-3311（代表）

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日 定時株主総会	毎年3月31日
期末配当金	毎年3月31日
中間配当金	毎年9月30日
株主名簿管理人	日本証券代行株式会社
同事務取扱所	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店
(郵便物送付先 お問い合わせ先)	〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 日本証券代行株式会社 代理人部 0120-707-843（フリーダイヤル） 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国本支店においても 行っております。
公告方法	東京都において発行する日本経済新聞
単元株式数	100株
皆様へのお願い	住居表示の変更・ご転居の際は、郵便物が間違いなく届きますよう、 お早めに上記株主名簿管理人にお手続きください。
ホームページ	https://www.chichibu-railway.co.jp ※情報誌「PALETTE」やイベント情報等がご覧いただけます。